２０２２年度事業計画

　(令和４年１月１日～令和年１２月３１日)

１．事業実施の方針

**子どもの心に寄り添い心を受けとめ生きる力を支援する活動の充実と発展を図る。**

1. 電話とチャットで子どもの声を受けとめる。
2. 受け手と支え手の資質の向上とモチベーションの維持を図るために定期的な研修を必修とする。
3. 全国のチャイルドラインと協力体制をとり情報を共有し運営や研修に生かす。
4. オンライン養成講座を開催し受け手を養成する。

**子どもの権利条約に保障された子どもたちを支える社会環境をつくるために地域社会に提言活動を行う。**

1. チャイルドライン支援センターに協力し全国のチャイルドラインとともに全国的な規模で受けとめた子どもたちの声を社会に発信していく。
2. 広報誌や実施報告書を発行し広報普及に力を入れる。
3. 公開講座を開催するなど、広く一般の方に「子どもの現状」の理解を広める。

２．事業の実施に関する事項

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 事　業　内　容 | 実　施 日　時 |
|  | 子どもの声を聴く事業の実施 | 電話毎週月・金・第2日・第3土　　16時～21時オンライン 毎月第1・第3木曜日　第2金曜日　16時～21時 |
| 受け手の研修を開催 | 1. インターネット安全教室」　　　　　　　　1月15日
2. 逐語研修　　　　　　　 　　　 1月28日
3. エリア研修「少年事件の背景」　　　2/5　2/13　2/15
4. 「ロールプレイング」福本理事　　　 　5月　(金)
5. 「困った電話①」研修部　 　　　　 6月
6. 「思春期の性」栃木理事　 　　　 　8月
7. 「電話相談の基礎」杉山雅宏　　　　　　 9月
8. 「困った電話②」研修部　　　　　　　　 10月
9. 「ロールプレイング」下牧千佳乃　　　　 11月
10. 「オンライン逐語研修」　　　　　　　　 年2回

※その他必要に応じて |
| オンライン養成講座 | 1. 「オンラインの基礎」岡田健一　　　　　　4/23
2. 「実践ロール3回」　　　　　　　　　　　5/15
 |
| 支え手会議(研修)の開催 | 年2回 |
| 子どもたちに配布するカード・ポスターの作成と広報 | 年間約20万枚のカード配布(県内全域の小学校・中学校・高等学校等) |
| ２啓発事業 | 公開講演会の開催 | 1. 公開講座「共に生きる・・」　副島　賢和 4月10日
 |
| 広報普及 | 実施報告書の発行　　　広報誌の発行　 |
| 啓発のためにイベント等に参加 | ※コロナ禍の状況に応じて参加1. ﾌｪｽﾀMy宇都宮・ふれあいフェス
2. 市青少年団体連「スポーツゴミひろい」等に協力
 |

**＜　財　政　＞**

実施報告書や広報誌等の有効な活用を図り、県内企業や個人の賛助会員についても、計画性を持って積極的な働きかけを継続的に行っていきたいと考えます。

チャイルドラインの意義を広報しながら寄付を募ることを会員一人ひとりが自覚をもって取り組む。

**＜　研　修　＞**

早期のオンラインチャット開設日増に向け、第二期オンライン養成講座を開催します。

前年の経験を生かし感染対策を万全にし、リモートも活用しながら、参加しやすい研修を考えます。

受け手、支え手研修を積み重ね、より一層のスキルアップをめざします。

コロナ禍のコミュニケーション不足解消を目標に、「困った電話プロジェクト」を立ち上げ、会員の気持ちに寄り添う機会を作ります。

**＜　広　報　＞**

子どもたちへの発信として、例年どおりカード配布やポスターの掲示などによりチャイルドラインをより身近なものと感じてもらえるよう広報に努力したいと思います。

社会発信としての活動は、コロナ禍どれだけ開催されるかわかりませんが、今年度もいろいろな交流会やイベントなどにも積極的に参加したいと思います。

リニュ―アルしたホームページを使ってより伝わりやすい情報を発信していきます。

広報誌もホームページより閲覧ください。

ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなどSNSでの発信も引き続き積極的に行っていきたいと思います。

コロナ禍大きな影響を受けている子どもたち、又いじめ、虐待、発達障害等、生きづらさを感じている子どもが多いこの社会において、他の団体、NPOとも手を携え、子どもの現状の理解と支援にも目を向け、広報誌などを通じて社会発信していきたいと考えています。

広報誌の発行は、第31号・第32号の発行を予定しています。

内部交流を目的に発行している通信は隔月で第115号～第121号の発行を予定しています。